

銀漢亭日録



伊藤伊那男

5月25日(木) ▼三輪初子さんと長さん。長さんから先日のプロボクシング村田の敗因など解説してもらう。
26日(金) ▼今日も閑散。「金星句会」あと六人、など。
27日(土) ▼「纏句会」。ニューヨークから戻った月野ぼぼな、新潟「喜怒哀楽書房」の木戸敦子さんゲスト。木戸さんは句会の取材。武田、洋酔さん、体調不調で欠席。十二人。鯉の叩き、鮎風干、桜海老の唐揚、握り、あと松代展枝さん宅でばな歓迎会。超結社で二十人位か。手製カラスミ持参。
28日(日) ▼宮澤、明朝よりロンドン行。大英博物館で発見された近松門左衛門の浄瑠璃の台本での英国公演の撮影と。信州の従兄弟から信濃毎日新聞の書評欄に私のエッセイ紹介されている、と電話あり。彗星集選評書いて七月号執筆終了。
29日(月) ▼閑散。種村さん他、漫画家四人。
30日(火) ▼「雲の峰」同人会長、高野清風さん他五人。それに合わせて清人さんが海鞘、牡蠣などを気仙沼から取り寄せて振る舞う。「炎環」の洋平さん他五人、吟行の帰りに。奥で句会。中村宗男さん、皆川文弘さん、洋酔さん。
31日(水) ▼古書店主の佐古田、安村さん、エッセイ集の祝いと日本酒届けて下さる。店、閑散。
6月1日(木) ▼店の五月の月次表作成。昼、ヘアメイクの中川さん来宅。整髪してもらう。「十六夜句会」あと十三人。松川洋酔さんゲスト。丁度洋酔さん誕生日にてお祝いの会となる。金井硯児さん、奥様と挨拶に来てくださる。入沢さん。
2日(金) ▼二十時位まで閑散。そのあと何故か繁忙。「大倉句会」あとの十五人も加わる。

11日(日) ▼終日家。「鷹羽狩行俳句集成」礼状。中島八起句集の原稿点検。昼寝、テレビなど。夜、桃子と酒。宮澤は明日ロンドンから帰国と。
12日(月) ▼発行所は校正作業、編集会議。店、「闇鍋の会」。森羽久衣さんが能登の水菜を持ち込み。それに合わせて各人色々な材料を持って参集十人。駒ヶ根市の大先輩、今井康之氏、私のエッセイ「実にいいー」と来店して下さる。氏は岩波書店の副社長迄やった人。
13日(火) ▼発行所、鳥居真里子さん句会へ貸し出し。店「火の会」六人。国会議員のT先生。水内慶太氏より月山菊沢山到来。
14日(水) ▼発行所「梶の葉句会」選句。店、松山さん三人。水内慶太さん。閑散。
15日(木) ▼久々、赤羽良剛氏。京都の浦井さんの友人四人。「銀漢句会」あと二十一人。まずまず繁忙。
16日(金) ▼店「聞句会」十人。志峯さん学友と四人。
17日(土) ▼「銀漢亭 Oh! 納涼句会」、超結社で二十八人。五句持ち寄り。席題で三句、二句と楽しく過ごす。大量の酒が空に！
18日(日) ▼終日家。高校同窓会誌へ四句送る。中島八起氏の句集原稿最終点検と跋文五枚程書く。夕方、杏さん一家も来て父の日を労ってくれる。丁度到来した「下村本焼あなご 明石本店」の穴子焼、東北の海宝漬、甲府「かいや」の煮貝、月山菊などを楽しむ。
19日(月) ▼「演劇人句会」九人。二十二時過、閉めて「大金星」で一時間程飲む。
21日(水) ▼高校同期「三水会」五人。あとは閑散。二十一時過閉める。読売新聞の記者・十時さんから電話あり、「銀漢亭こぼれ嘶ーそして京都」の書評、小さなスペースだが日曜日に掲載と。こし

3日(土) ▼倒産した金融会社時代の同窓会、三回目。十七人集まって下さる。かれこれ二十五年ほど前の仲間である。十五時から二十一時まで。皆の話は尽きない。来年の再会を約す。
4日(日) ▼「春耕同人句会」は休み、休養。ただしそのあとの高木良多顧問を偲ぶ会で中野サンブラザ。十五階「リーフルーム」へ。献杯の役目。終了後、十名程で「炙谷」で二次会。
5日(月) ▼ランニングマシーン(RM) 時速4.5キロで一時間。店、「銀化」の梅田津さん他、四人の会。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十二人など。
6日(火) ▼駒ヶ根市長の杉本君、市町村会議で上京として寄ってくれる。のりをさん。洋酔さん病院の帰りについてい……と。閑散。二十一時半閉める。
7日(水) ▼福永新祇さん「五人の会」奥で句会。岐阜の堀江美州さん、国会議員のTさん。発行所で「きさらぎ句会」あと十人。「宙句会」あと九人など。
8日(木) ▼「あ・ん・ど・うクリニック」。「大倉句会」五周年記念誌へ送る言葉千字程。十四時、「春耕」中島八起氏の句集跋文を書くに当たって、新宿の喫茶店で打ち合わせ。店「極句会」あと十一人。あと初参加の大住光汪君と「大金星」。大住君は伊那北高校同期。大病で俳句中断あつたが今日から復帰。
9日(金) ▼大西酔馬君六十二歳の誕生会。超結社で二十五人集まる。水内慶太氏、たまたま来店した対馬康子さんなども。高部務氏「エッセイ集良かった」と来て下さる。高部氏はここ数年「新宿物語」などでデビューした作家。
10日(土) ▼十時、運営委員会。武田編集長欠席。二週間前から大病の疑いあつたが多分大丈夫という知らせに一同胸を撫で下ろす。十五時より「銀漢本部句会」五十八人。あと「テング酒場」十五人程。

だまはさんが本を手渡してくれたもの。
23日(金) ▼八月号選句。花果さんの句集稿点検。朝、桃子が海老蔵の舞台に行く。そのあと小林麻央さん逝去の報。テレビ見るとシアターコクーンの前で舞台が跳ね、客が退場する風景が映ったが、何と桃子が画面を大きく横切る。店、「白熱句会」(水内慶太、檜山哲彦、藤田直子、佐怒賀正美さん)。秋元孝之さんと奈良の三村一さん父子。
24日(土) ▼「纏句会」に十句預けて十四時五十分発の「のぞみ号」にて京都へ。「ホテルオークラ京都」に荷を解く。Aご夫妻に招待いただいた旅。十八時にロビーに待ち合わせて、花見小路のお茶屋「一力亭」へ。京都在住のWさんも同行させてもらう。一力亭では三十畳程の部屋。屋内も紅殻色。十六歳の舞妓さん二人。芸妓さん二人などの接待。何とWさんの友人の娘さんが一力亭に嫁いでおり、挨拶に来た女将と話が弾む。三時間ほど別世界を楽しむ。料理は仕出し店「菱岩」から届くもので見事。「祇園小唄」や「蜩籠」の踊なども。皆と別れて「木屋町サンボア」。「竹鶴」二杯ほど。そのあと冷し中華を食べてしまったが、A氏には内緒にすることに……。
25日(日) ▼八時、ホテル十七階「オリゾンテ」にて朝食。読売新聞の「本よみうり堂」欄に私のエッセイ集の短評あり、有り難いこと。九時半、個人タクシー細川さんが迎えに来て、皆で金戒光明寺、崇道神社、八瀬のかま風呂(河鹿を聞く)、大原の建礼門院徳子陵、三千院、寂光院など巡る。京漬物「富川」に寄って本日の宿所「俵屋旅館」に入る。夕食は見事としか言いようのない品々。鮎、鰻など只言ではない。酒は「羽田酒造」の「俵屋」。